

花巻市 博物館だより

HANAMAKI
CITY MUSEUM



No. 77

2025.12



花巻市博物館IP



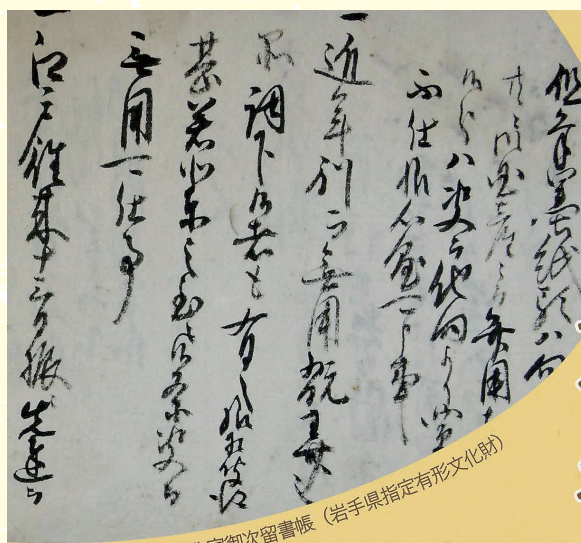
Facebook



Instagram

目次

- ▶ P 1 テーマ展「次世代へつなぐ花巻市の歴史」 ▶ P 2～3 「市史編さん室だより」
- ▶ P 4～5 テーマ展「次世代へつなぐ花巻市の歴史」 ▶ P 6 活動レポート「花博おすすめ！出前授業」
- ▶ P 7 館長コラム・インフォメーション ▶ P 8 花博コレクション



盛岡藩北家御次留書帳 (岩手県指定有形文化財)

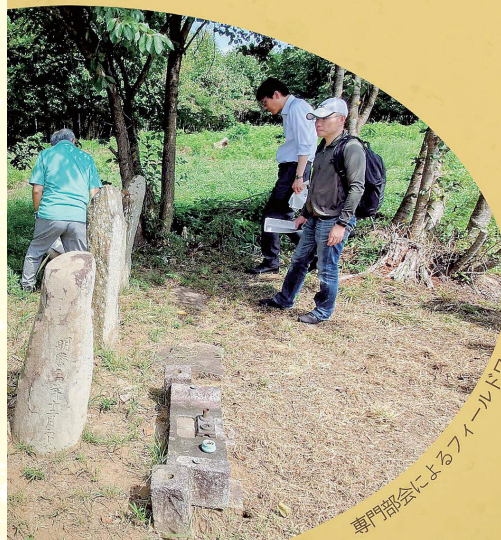
次世代へつなぐ 花巻市の歴史

令和7年度テーマ展

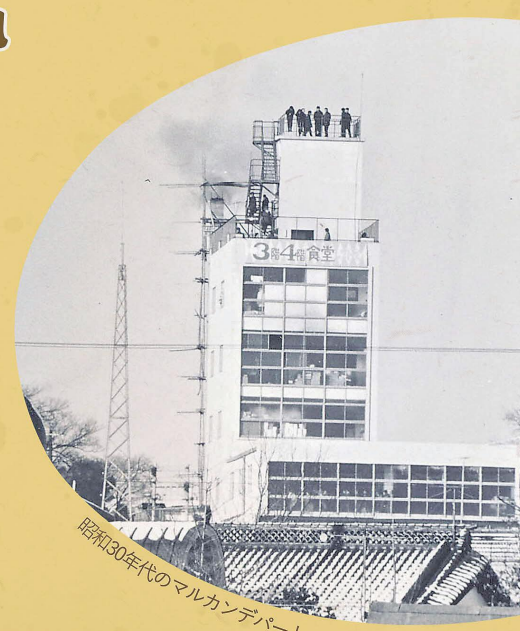
——花巻市史編さんの取り組み——



本郷古物類
花巻市
市民から提供いただいた資料情報 (引き継)



専門部会によるフィールドワーク



昭和30年代のマルカンデパート

花巻市博物館では、花巻市の歴史文化を総合的にまとめた『花巻市史』の編さんを進めています。

『花巻市史』『大迫町史』『石鳥谷町史』『東和町史』の旧4市町史が刊行されて40年以上が経過し、その後の調査研究の進展により、新しい史実が明らかになってきています。

そこで、現在行っている市史編さんの取り組みに関するテーマ展を令和8年1月31日から4月12日まで開催し、調査の過程で明らかになったことを含め、博物館収蔵資料とともに紹介します。

～市史編さん室だより～

市史編さんの目的

現在の花巻市は、旧花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町が合併し、平成18年（2006）に誕生しました。合併前の旧4市町では、昭和30年代から60年代にかけてそれぞれ自治体史を刊行してきましたが、現在の花巻市となってからの自治体史は未整備の状態です。この間、調査・研究が進み、新たな知見が蓄積されています。一方、花巻市に由来する資料の散逸が懸念されており、資料の所在確認や収集も急務となっています。次世代に花巻市の歴史を繋いでいくため、市域全体の歴史を整理し、資料の調査結果を反映させた花巻市史を編さんしていきます。

市史の構成

花巻市史は、先史から現代までの歴史を取り扱う「資料編」と「通史編」、特定の分野に焦点を当てる「特別編」を刊行します（全13巻）。市史編さんに当たっては、先史、古代、中世、近世、近代、現代、自然、民俗、美術工芸の9つの専門部会を設置し、調査、研究、執筆を行います。

令和6年度（2024）には先史から近代までの5部会を立ち上げ、部会ごとの会議や資料調査など本格的な活動がスタートしています。

花巻市史の構成

構成	巻数	概要
資料編	5巻	市史を編さんする上で根拠となる資料等を掲載し、解説する。
通史編	5巻	市の出来事を年代順に文章で記載する。
特別編	3巻	特定の分野に焦点を当て、その分野の特筆する事項について、文章や写真、図等で解説する。

市史で取り扱う時代・項目

構成	分野	範囲
資料編	考古	先史からの考古資料
	古代中世	古代：古墳時代～後三年合戦 中世：平泉開府～（終わりは調整中）
	近世	岩崎一揆～盛岡藩の廃藩置県
	近代	戊辰戦争～太平洋戦争終戦
	現代	戦後～平成
通史編	先史	弥生時代以前
	古代中世	資料編と同じ
	近世	
	近代	
	現代	
特別編	自然	地質・鉱物、動植物、自然災害など
	民俗	郷土芸能、地域の伝承、民具など
	美術工芸	絵画、文芸、工芸品など



近世部会のフィールドワークの様子

児童向け市史の発行

市史本編に先行して令和8年度末(2027)に「(仮称)児童向け市史」の発行を計画しています。児童向け市史については、令和6年12月に児童向け市史編集委員会を立ち上げ、編集会議での協議を経ながら、現在執筆に取り掛かっています。小学校高学年を対象に、学校の授業や読書の時間などでの活用を通じて花巻の未来を担う子どもたちに郷土の歴史を知ってもらうため、令和9年度に市内の小学5、6年生に配布し、次年度からは毎年小学5年生に配布していく予定です。

古い資料の情報提供について

市民の皆様への市史編さん事業の周知の一環として、令和7年(2025)3月から広報紙や当館SNSを通して、花巻市に関する資料の情報提供をお願いしています。現在までに14件(令和7年11月1日時点)の情報提供があり、明治・大正時代の引き札や絵図、江戸時代の古文書、戦争関係資料など、貴重な資料の発見につながっています。



市民から提供いただいた資料の一例(引き札)

おわりに

今年度は9部会のうち現代、自然、民俗、美術工芸の4部会を立ち上げ、全部会の活動が始まる予定です。引き続き古い資料の情報提供もお待ちしておりますので、情報をお持ちの方はぜひ当館までご連絡ください。

花巻市史編さん経過

令和3年度 (2021)	花巻市史の編さんに向けた準備に着手
令和4年度 (2022)	花巻市博物館内に「市史編さん室」を設置(4月) 「花巻市史編さん委員会設置要綱」策定(10月) 花巻市史編さん委員会開催 (令和5年2月)
令和5年度 (2023)	花巻市史編さん委員会①開催 (6月) 花巻市史編さん委員会②開催 (8月) 花巻市史編さん委員会③開催 (11月) 「花巻市史編さん基本方針」策定 (11月) 花巻市史編さん委員会④開催 (令和6年3月)
令和6年度 (2024)	花巻市史編さん委員会開催(6月) 「花巻市編さん専門部会設置要綱」制定(8月) 児童向け市史編集委員会開催、執筆開始(12月) 先史、古代、中世、近世、近代の5つの専門部会を設置 (令和7年2~3月) 古い資料の情報提供呼びかけ開始(広報はなまき、SNS等)(3月)
令和7年度 (2025)	児童向け市史編集委員会①開催 (5月) 花巻市史編さん委員会①開催 (7月) 近世部会開催(8月) 先史部会、古代部会開催(9月) 児童向け市史編集委員会②開催 (10月) 近代部会開催(10月) 中世部会開催(11月)

(令和7年11月現在)

令和7年度花巻市博物館テーマ展

次世代へつなぐ花巻市の歴史

— 花巻市史編さんの取り組み —

令和8年1月31日(土)～4月12日(日)

花巻市博物館では、花巻市の歴史文化を総合的にまとめた「花巻市史」の編さんを進めています。

花巻の地には古くから人が住み、時代を超えてたくさんの人が繋いできた多くの歴史が息づいています。こうした歴史を適切に記録・保存、調査研究し、その成果を次世代にしっかり継承することは、重要な取り組みです。

市史編さんは、まだスタートして間もないですが、本展では、現在行っている市史編さんの取り組みについて、調査の過程で明らかになったことを含め、博物館収蔵資料とともに紹介します。

◆市町史の歩みと新しい市史の編さん

自治体史は、地域の歴史や文化、民俗などを調査し、その成果を刊行物にまとめたものです。

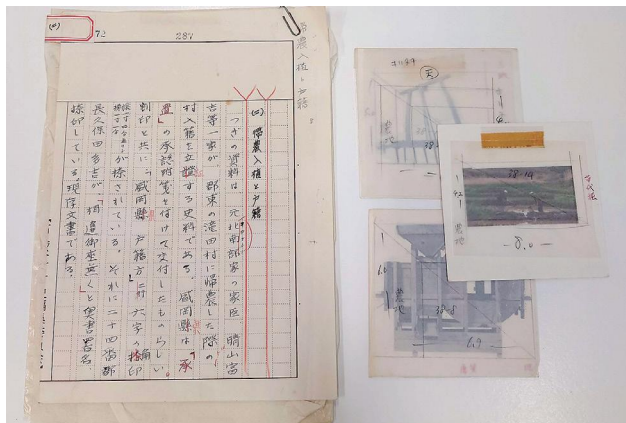
旧4市町では、市町制施行記念事業等の一環として編さんの企画が立てられ、各市町の特徴的な歴史をまとめた自治体史がそれぞれ刊行されています。

【旧4市町の自治体史の編さん状況】

自治体史名	巻 号	発行年
花 巻 市 史	古代中世篇ほか (11冊)	1962～79
	資料編	1970～
大 迫 町 史	交通編ほか (6冊)	1979～87
石 鳥 谷 町 史	上下巻 (2冊)	1979・1981
	資料編 (8冊)	1966～71
東 和 町 史	上下巻、民俗編 (3冊)	1974～79

市史を編さんする上で重要なのが、地域に残る資料の収集及び調査です。旧4市町の自治体史編さんに関連して、当時の調査記録類（調査メモ、資料の撮影写真、古文書を筆写したもの、資料のスケッチ等）や執筆者の手書きによる原稿等が残されています。

【東和町史の執筆原稿と写真類】



旧4市町の自治体史が刊行されてから既に40年から60年以上が経過しています。また、それぞれの市史・町史刊行後の歴史編さんについては整備がされていません。そこで、市域全体の歴史を体系的に整理し、次世代へつなぐ花巻市史を編さんすることとなりました。

新しい花巻市史の編さんを進めていく上での基本的な方針や構成、編さんスケジュール、編さん体制などをパネル等で紹介します。

◆花巻の歩み

花巻には、古くからの生活の場であったことを示す縄文時代の遺跡が数多くあります。平安時代以降は安倍氏、平泉藤原氏四代が治め、その後約400年にわたって稗貫氏や和賀氏などの統治下となりました。稗貫氏は花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町の一部にまたがった地域を、また、稗貫氏と姻戚をなす和賀氏は、現在の北上地域をはじめ花巻地域の一部を治めました。江戸時代には、本

地域を盛岡藩が統治し、南の仙台藩との境を守る重要な場所となりました。明治に入って廃藩置県が行われ、1889年の町村制施行、昭和の大合併を経て花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町が誕生しました。その後、平成の大合併における2006年1月1日、現在の花巻市が誕生しました。

花巻の歴史の中でも特徴的な事項とともに、昭和の懐かしい写真を多数ご紹介します。

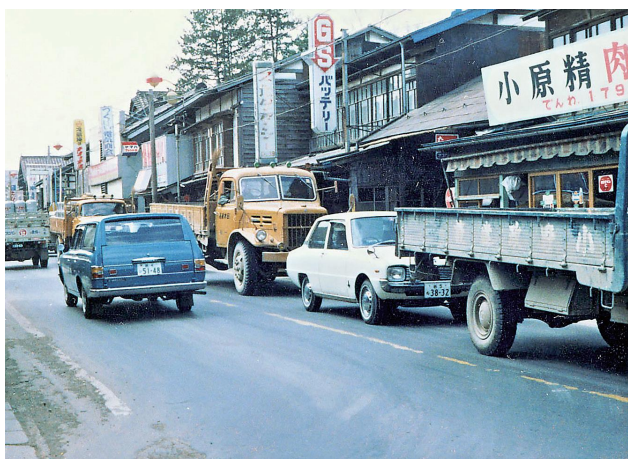
【昭和の懐かしい写真】



花巻上町商店街（昭和37年）



大迫市日（昭和40年代）



石鳥谷商店街（昭和40年代）



土沢下町（昭和40年代）

◆新資料の発見と新しい技術による調査

約10年後に発行を完了する目標の市史の編さんは始まったばかりですが、編さんの過程で新たに発見された資料があります。そのひとつが太平洋戦争当時に作成された「徴兵人名簿」です。この名簿には、新堀村（現、花巻市石鳥谷町新堀）における兵役対象者の氏名・年齢・住所等が記されています。この資料とともに、徴兵身体検査に関する記録と併せて、現存しているのが極めて珍しい資料も調査の過程で発見されました。

また調査の一環で、新しい技術である「赤色立体地図」を活用しています。赤色立体地図は、地形を読み取る方法の1つで、傾斜が急な面が赤く、尾根は明るく谷が暗くなるように表されます。この技術を活用することで、これまで把握されていなかった、中世の城館や寺、山岳寺院などの遺構が分かってきました。

本展では、新たに発見された資料等の他に、広報はなまき等で資料情報の提供を呼び掛けた際に寄せられた資料情報や博物館が寄贈を受けた資料も併せて紹介します。

そして、市史編さんの調査に関連したクイズなども予定しています。

◆関連イベント

◆ギャラリートーク

日時：令和8年2月14日(土) 13:30～

場所：花巻市博物館 企画展示室

（要入館料／予約不要）

活動レポート

“花博おすすめ！出前授業”「昔の道具とくらし」 「縄文時代のくらし」

花巻市博物館では、博物館と学校とが連携して児童生徒の学びを支える「博学連携」の活動を実施しています。本稿ではその活動の中から「出前授業」についてご紹介します。

◆「出前授業」とは

「出前授業」とは、博物館の学芸員が学校に向いて、テーマに沿って解説したり児童生徒が資料を観察したりする授業のことです。中でも特に利用が多いのが、小学校3年生を対象とした「昔の道具とくらし」と、小学校6年生を対象とした「縄文時代のくらし」です。この2つは教科書にダイレクトにつながることから、先生方が利用しやすい授業になっています。

◆「昔の道具とくらし」出前授業の実際

この授業は、観察から始まります。本物の道具をさわって観察するので、観察前に、さわる時の注意点を学芸員が伝えます。ここでは道具の名前も使い方も教えません。



①観察の注意点を伝える



②グループごとに観察

その後、グループごとに資料を見たりさわったりして「どんな使い方をしていた道具なのか」を相談しながら考えます。見たことのない道具が多く、かなり頭を悩ませて考えます。時には奇想天外な発想も出てきて、楽しみながら学習できているようです。

6テーブル12個の道具の使い方を考えたら次は、学芸員が一つずつ名前と使い方と年代を解説します。道具の中には、全く予想できなかった物もたくさんあり、児童は昔の人の知恵に感心していました。

観察した道具の解説の次は、平安時代から使われ続けてきた「アイロン」の進化について解説



③道具の解説



④アイロンの進化の解説

します。古には金属に炭火を乗せて皺をのばしていたものが、近代以降、急激に進化していった様子を聞くと、児童は一様に驚き、その進化が未来につながり、さらに進化していくであろうことも予想できるようです。

最後は昔の家屋について、矢沢地区に現存する「熊谷家」をもとに解説します。昔はどんな生活が営まれていたのかを、現代の生活と比べながら伝えていきます。



⑤昔の家屋の解説

◆「縄文時代のくらし」出前授業の実際



スライド解説の一部

学校によっては学区内の遺跡について紹介することもあります。実際にさわることができる土器片や石器も持参します。

この授業は、小学校6年生社会科6月単元の導入またはまとめとして使うことができます。

前半はスライドで縄文時代の概要を解説し、後半は実物の縄文土器などを観察します。

◆出前授業の利点

学校側には、①バスでの移動が不要、②費用が不要、③授業は学芸員が行うので準備が不要、④本物を観察させられる（さわって確認できる資料もある）などのメリットがあります。

児童達にとっても、実物資料に直にふれて考えたり発見したりする経験は、貴重なものになっているようです。

館長
コラム

月見どろぼう

「中秋の名月」、いわゆる十五夜は、一年で最も月が美しく見える日で、お月様に餅や団子・果物などを供えて、収穫に感謝するという行事である。私が子どもの頃は、名月を愛でるなどという感性はなかったが、心躍る楽しい日であった。なぜなら、子どもたちだけは各家の月見のお供え物をこっそり盗ってもよかったからである。

最近まで花巻市内全域で行われていたものと思っていたが、他地区の友人や知人に聞いても、誰もこの行事のことは知らない。そんなにローカルな行事なのかと思い調べてみたら、昔は全国的に行われていたらしい。

諸説あるようだが、一般的には「月見どろぼう」と呼ばれており、子どもたちは「月からの使者」とされて、この日だけはお供えを盗むことを許されたという。そのため、お供えを取られた家では「お月さんが持っていった」と喜んだ。これは秋の収穫物を皆にお裾分けするという意味合いもあったと言われている。

『現代民俗学入門』（創元社）によると、最近は交通事故や習い事の都合で、日没前の明るいうちに、各家の玄関先に置かれた駄菓子などをもらい歩く風習に変わった地域も多いという。また、「和製ハロウィン」と呼ばれて、新しい地域住民の交流の機会になっているところもあると紹介されている。もう「エモイ行事」などとは言っていられなくなってきたようである。

そういえば、ここ数年マスコミを含めて問い合わせがあった、墓石に昆布を乗せるという風習も、市内だけではなく北上市や奥州市胆沢地区などにも見られることがわかってきた。

岩手県の中央部に位置する花巻市は、古から周辺の風俗や慣習の影響を受けてきたであろうことは想像に難しく、案外「民俗のるつぼ」なのではないかと思い始めている。

今年度は市史編さん事業で、民俗部会が立ち上がる。社会の変化により、地域の伝統的な文化や暮らしが失われつつある今、これらを記録して後世に伝えていくことは、重要な責務ではないかと感じている。今後の民俗部会の調査に期待したい。

令和7年12月～令和8年3月の行事予定

【企画展示室】

- テーマ展「次世代へつなぐ花巻市の歴史
—花巻市史編さんの取り組み—」
会 期：1月31日(土)～4月12日(日)

【ワークショップ】

- ◆花巻人形絵付け
日 時：3月22日(日) 13:30～15:00
定 員：20名 ※要申込
材 料 費：1,600円～
申込期間：2月22日(日) 8:30
～3月21日(土) 16:30



花巻人形絵付け



絵付け人形の一部

【講 座】

◆館長講座－3

「神楽と石碑から見る牛頭天王と八将神」

日 時：2月1日(日) 13:30～15:00

定 員：30名 ※要申込

費 用：無料

申込期間：1月2日(金) 8:30
～1月31日(土) 16:30



館長講座－3

◆学芸員講座－3

「農地改革と花巻」

—改革前後の農家・農地に注目して—

日 時：3月8日(日) 13:30～15:00

定 員：20名 ※要申込

費 用：無料

申込期間：2月8日(日) 8:30
～3月7日(土) 16:30



学芸員講座－3

※講座の参加申込みはオンラインまたはお電話にてお申込みください。

※各ワークショップ・講座の会場はいずれも花巻市博物館 講座・体験学習室です。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1
電 話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで
休 館 日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※() 内は20名以上の団体割引料金です。

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1019887/1008981/index.html>

交通案内

◆バス

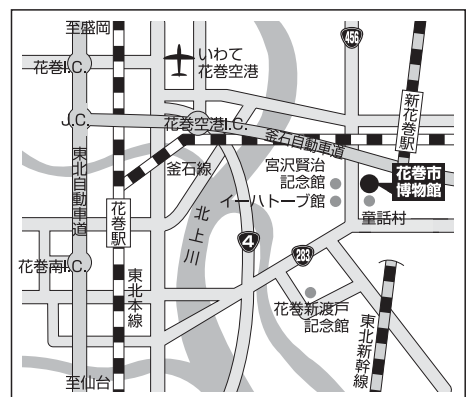
新花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
シーナシーナ花巻前行…約5分
花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
道の駅とうわ行…約20分

◆車

花巻空港ICより…約10分

◆徒歩

新花巻駅より…約25分



HANAHAKU

花博コレクション

COLLECTION

花巻人形「初夢」



時代／明治以降 サイズ／高さ11.3cm、幅24.8cm、奥行9.8cm

机に頬杖を突いて微笑む、花柄の赤い着物姿の愛らしい女性。その後方には高く大きく裾野を広げる山、滑空する鷹、そして山麓には茄子が配置されています。これは、「一富士二鷹三茄子」で知られる、初夢に見ると縁起が良いものを順番に並べたことわざを題材にした花巻人形です。茄子の彩色に紫色を使用していることから明治以降の制作と考えられます。女性は初夢を楽しみにしているのか、それとも夢の中を表しているのか、そんなことを考えながら鑑賞するのも楽しい人形です。

初夢のことわざは江戸時代初めにはすでにあったといわれ、江戸時代後期に太田全斎によって編纂された『りげんしゅうらん 俚言集覧』や平戸藩主・まつうらきよし 松浦清（号は静山）の随筆『おおた ぜんさい 甲子夜話』などの文献にも記載されています。由来は諸説あり、徳川将軍家と縁の深い駿河国（現静岡県中部）と結び付けた説が多いのが特徴です。その中で最も有力なのが、駿河の名物を挙げたとする説です。富士山は日本一の高さを誇り、その山麓に生息する鷹は最高の種とされていました。さらに、駿河で生産される茄子も逸品であるということから、優れたものの象徴として三つを並べたというものです。その他にも、富士山は高く大きく、鷹はつかみ取る、茄子は「成す」の意味で、縁起の良いものを順に挙げたとする説もあります。

江戸時代後期の盛岡藩領花巻で誕生した花巻人形は、色彩豊かな花模様を主体とし華やかでありながら大らかな表情、ユニークで多種多様な題材が見られることが魅力の土人形です。花巻人形は、子どもの健やかな成長を願う雛人形というほかに、風俗文化や歴史・道徳を子どもたちに伝える教材でもあったようです。縁起の良いことわざを題材としたこの花巻人形も雛壇に飾られ、豊かな教養を深める一助となったのでしょう。

(学芸員 高橋静歩)